

## オランダミミナグサ (和蘭耳菜草)

名前の意味<sup>いみ</sup>：西洋から渡ってきたミミナグサの意味。オランダは江戸時代を通じて唯一<sup>ゆいつこうえき</sup>交易が許されていたヨーロッパの国で、西洋からやってきた植物にはよくオランダの名前が付けられる。耳はネズミの耳に葉が似ていることを表している。

分類：双子葉類、ナデシコ科、ミミナグサ属

(ナデシコ科の栽培<sup>さいばいしよくぶつ</sup>植物：カーネーション)

好きな場所：日当たりのよい道ばた、庭

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：ヨーロッパ

特徴<sup>たいせい</sup>：対生する毛の多い楕円形の葉、白い小さな花

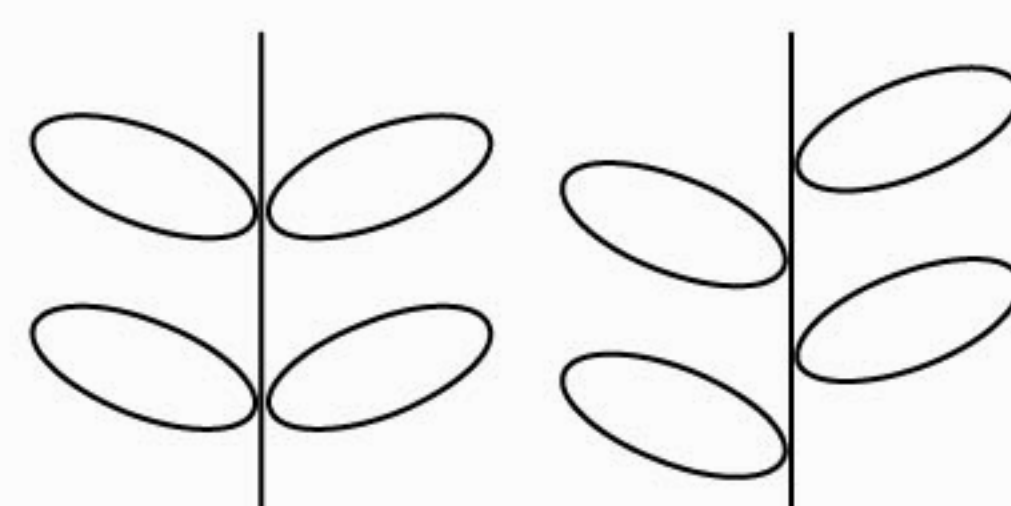
種子の運ばれかた：そのまま地面に落ちる

花弁の数：5枚、離弁<sup>りべん</sup> (花びらが1枚ずつ散る)

花の時期：4—5月

食べ方：食べられるけれどもおいしくない

見分け方：オランダミミナグサは花が集まっていること、花の柄<sup>え</sup>がとても短いこと、全体に毛が生えていて、さわるとふかふかしていることでハコベから区別できる。



たいせい  
対生

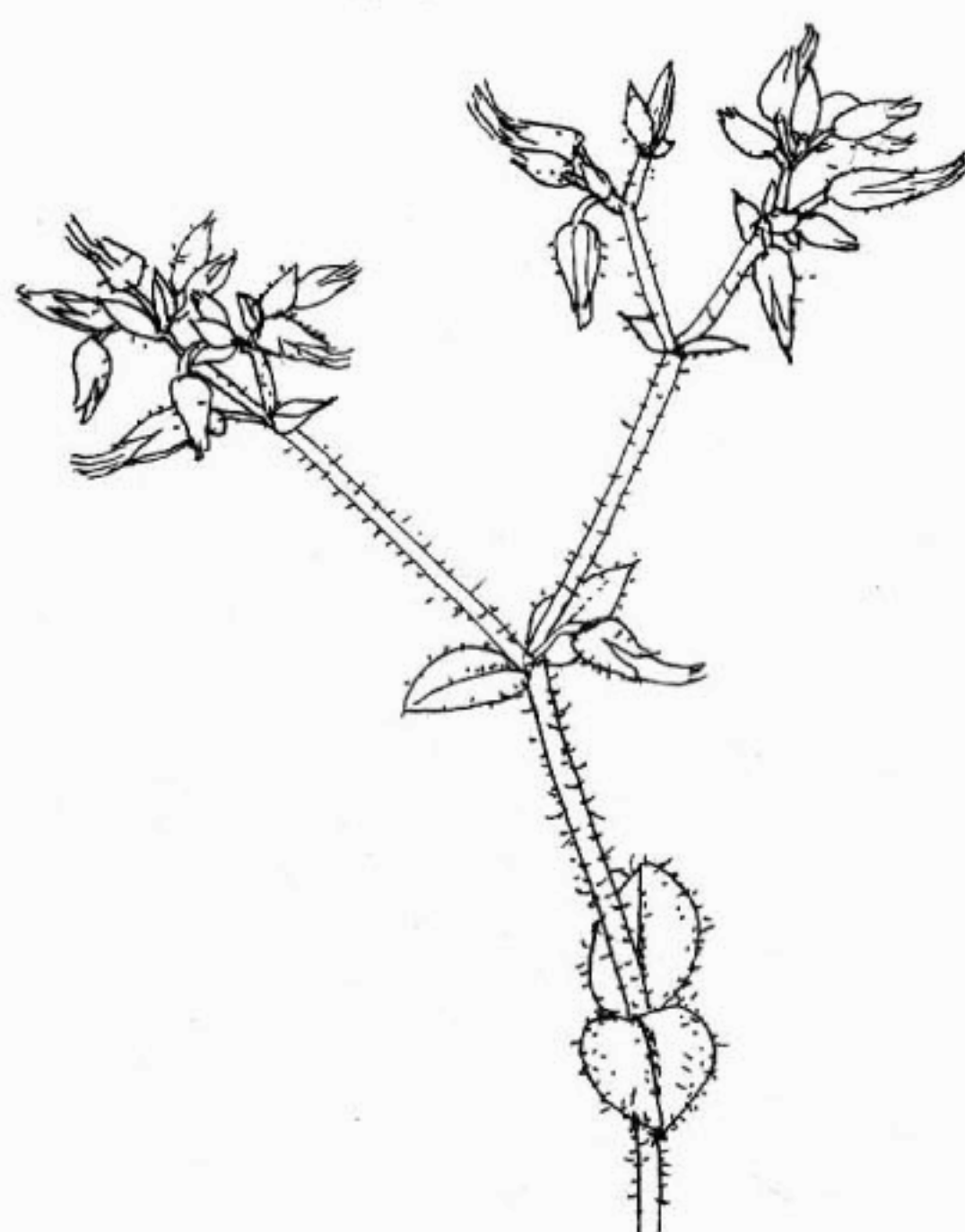
ごせい  
互生

見つけやすさ ★

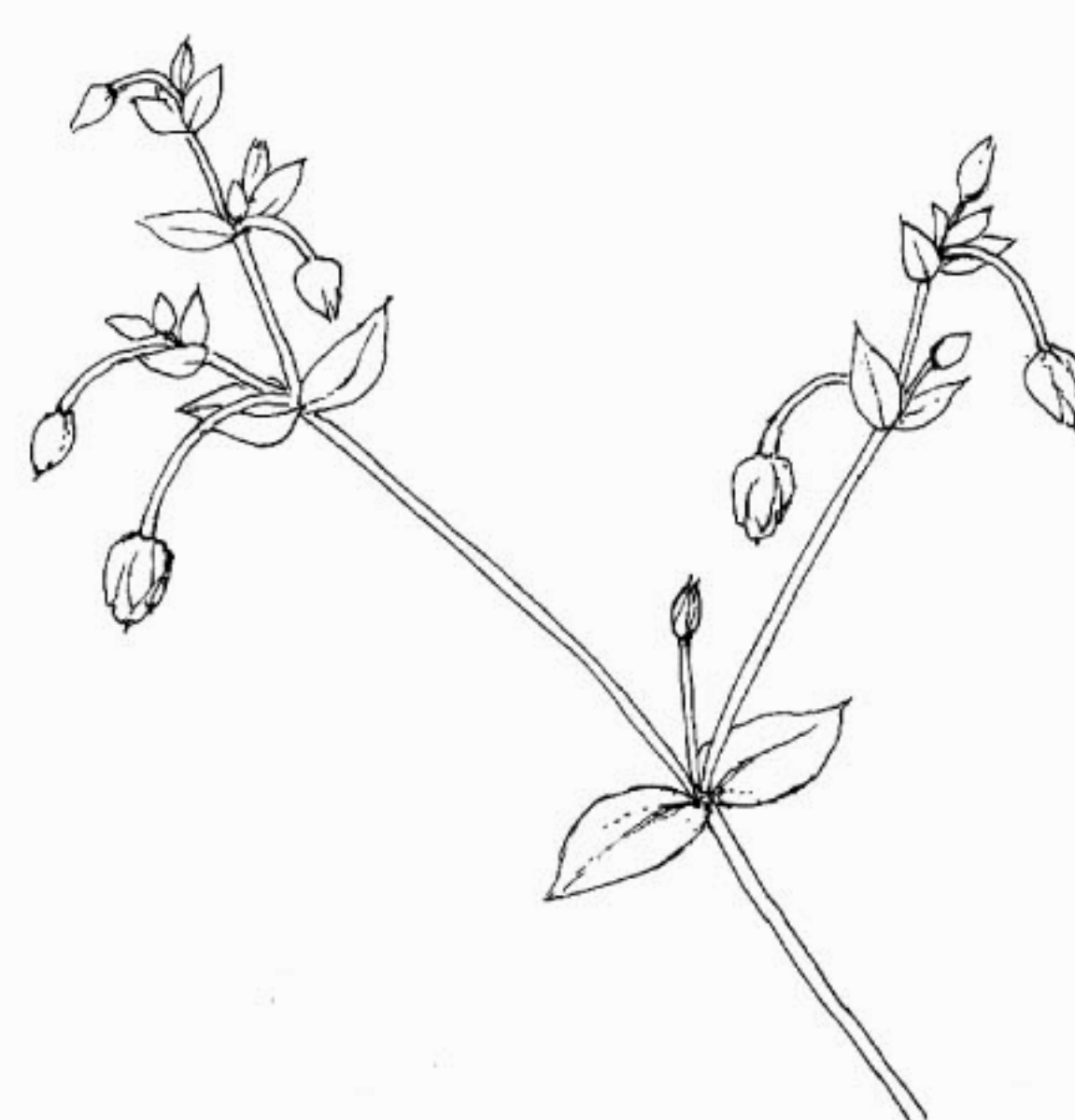
見分けやすさ ★★

総合難易度<sup>そうごうなんいど</sup> ★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)



オランダミミナグサ



ハコベ (毛がすくない)